

平塚まちなか活性化ロードマップ



2019年3月

目次

第1章	ロードマップの概要	1
1.	ロードマップ作成の目的	1
2.	まちなかのエリア	1
3.	ロードマップの策定体制	2
4.	計画期間	2
第2章	まちづくり像	3
1.	まちなかの状況	3
2.	まちなかの活性化のステップ	10
3.	活性化の目標	11
第3章	戦略とまちづくり活動	12
目標A	歴史を感じられるまち	14
目標B	人が集まる・集まりやすいまち	21
目標C	商業者のネットワークが強いまち	30
目標D	機能更新が進むまち	36
第4章	まちづくりの体制	40
1.	推進体制	40
2.	エリアマネジメントの方針	41
3.	まちづくりの人材育成のスキーム	42
第5章	アクションプログラム	43
1.	活動スケジュール	43
2.	情報発信方法	47
3.	ロードマップの進行管理方法	48

第1章 ロードマップの概要

1. ロードマップ作成の目的

平塚市は、平塚駅周辺地区（まちなか）の活性化をめざし、2018年度に平塚駅周辺地区活性化ビジョンを策定しました。

一方で、まちなかの活性化のためには、地域（商業者、地域住民等）の自主的なまちづくりも必要です。

そこで、まちづくり活動の担い手となる商業者等が中心となり、まちづくりの進め方の計画書として、地域が自ら取り組むまちづくり活動や進め方を位置づける「平塚まちなか活性化ロードマップ（以下、ロードマップ）」を策定することになりました。

“まちなか”が平塚市の顔として、全市的な活性化の先導役になることを目指してロードマップを策定します。

2. まちなかのエリア

ロードマップの対象エリアは、平塚駅北口周辺を中心とした商店街が集まる地区とします。このエリアを“まちなか”と呼ぶことにします。

明確な区域を設定せず、活動に合わせて柔軟に対象エリアに設定しながら、まちづくり活動を進めていきます。

<まちなかのエリア>



3. ロードマップの策定体制

ロードマップは、「平塚まちなか活性化隊（以下、まち活）」が、商店会や自治会の代表等が集まって開催した意見交換会のアイデア提供を受けながら作成しました。

その後、平塚商工会議所と平塚市などで構成される平塚市中心市街地活性化調整協議会で承認を受け、策定しました。

<ロードマップの策定体制>

ロードマップの承認機関

平塚市中心市街地活性化調整協議会



ロードマップの作成機関

平塚まちなか活性化隊
(まち活)

アイデア提供の機関

意見交換会

まちなか商業者
(商店会の代表等)

地域住民等
(自治会の代表等)



4. 計画期間

計画期間を 2018 年度から 2022 年度の 5 年間とし、その期間の活動内容を位置づけることとします。

なお、2018 年度は、意見交換、実験的取組などの検討期間として位置づけます。

第2章 まちづくり像

1. まちなかの状況

(1) 歴史性を有するまち

まちなかは東海道の平塚宿周辺に位置し、平塚八幡宮の参道に商店が建ち並び、まちが形成されてきました。その後、戦後復興により、市内外から多くの買い物客で賑わい、新しい商業地が形成されました。まちなかは東海道や商都としての歴史性を有するまちと言えます。

<平塚宿の江戸見附の説明板>



<平塚八幡宮>



(2) まちの活力の低下

平塚駅の乗降者数は増加傾向にあり、まちなか周辺に集まる人は増えている状況です。一方で、まちなかの歩行者通行量は減少傾向にあります。また、空き店舗が多く、賑わいが失われつつあります。

<歩行者通行量の推移>



注1：調査時間 10時～19時 注2：年度により測定地点数が異なる（H16、H19は40地点、H25、H28は42地点）

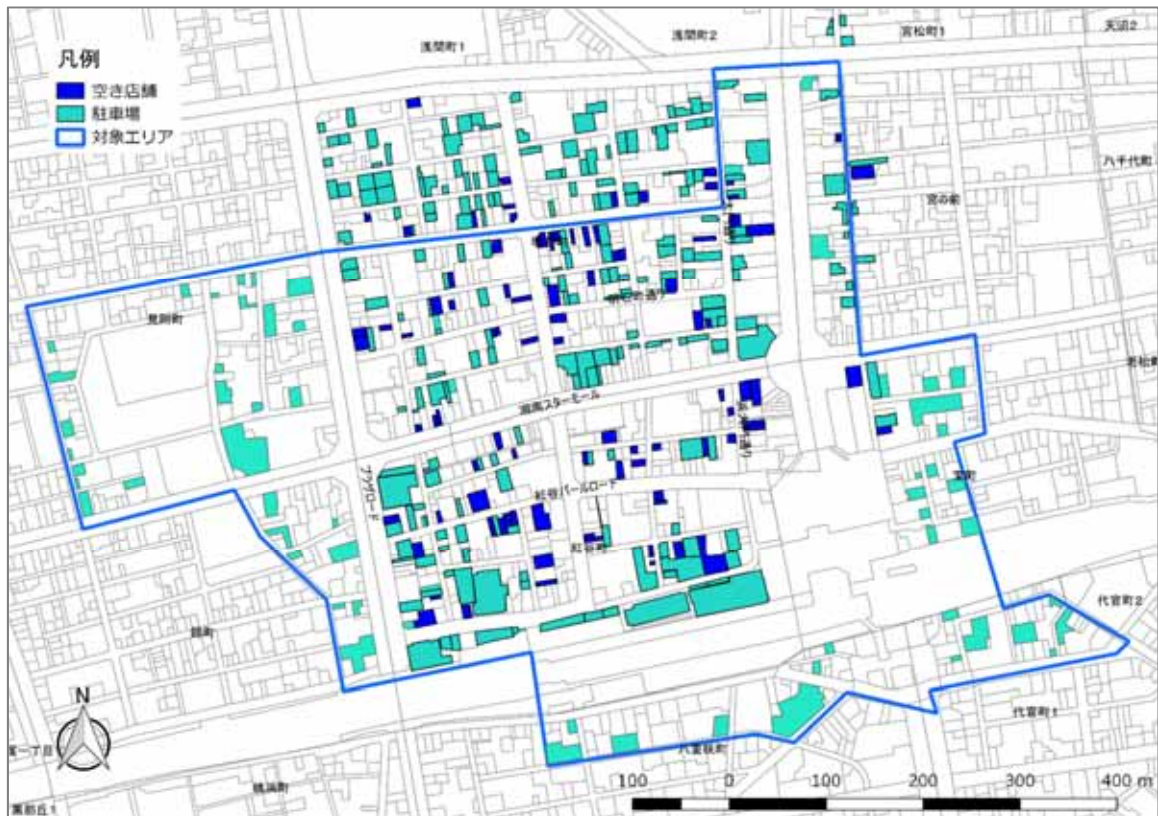
資料：平成28年度平塚市中心商店街通行量調査より作成

<地点別歩行者通行量の推移>



資料：平成25年度平塚市中心商店街通行量調査、平成28年度平塚市中心商店街通行量調査

<空き店舗及び駐車場の立地状況>



資料：平塚市調査結果

(3) 集まっている人の特性

NTTドコモの携帯電話の位置情報（ビッグデータ）を活用して、まちなかに集まっている人の特性を調べました。

曜日やイベント日別の滞留人数

まちなかには、平日、休日の昼、夜ともにピーク1時間あたり2万人前後の人が滞留しています。一方で、湘南ひらつか七夕まつりの日には5~6万人が滞留しています。

東海道線沿線の他地域（駅周辺の同じ面積のエリア）と比べると、茅ヶ崎駅周辺や辻堂駅周辺と同等の集客状況であり、平日は両地区よりも滞留人数が多い状況です。

<ピーク1時間の滞留人数>



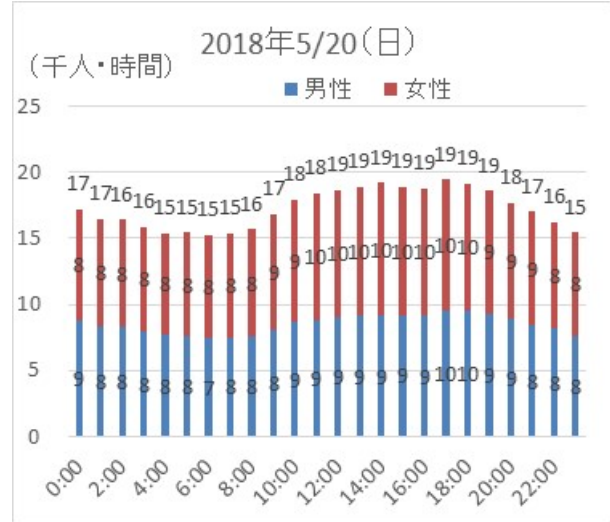
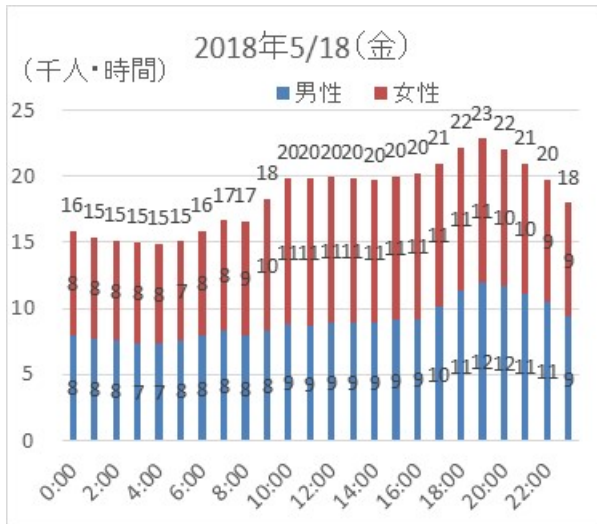
<日あたり滞留人数の他地区との比較>



時間帯別の滞留人数

平日は午前中から夜にかけて一定の滞留人数があり、夜 19 時頃がピークとなっています。休日も午前中から夜にかけて一定の滞留人数があり、午後から夕方にピークがあります。まちなかには常に人が集まっていることが分かります。

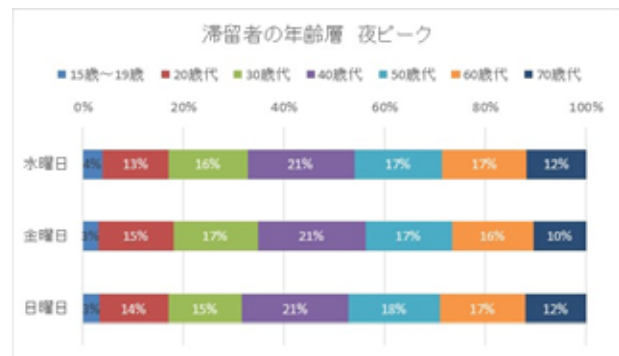
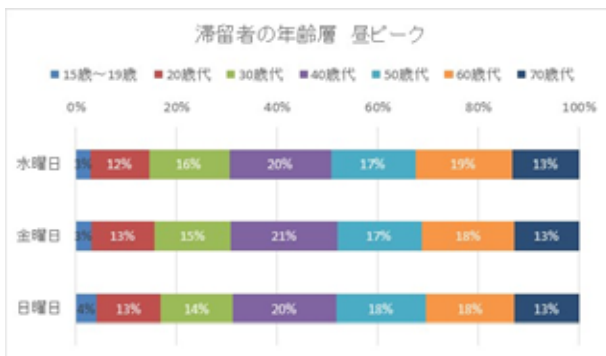
<平日、休日の時間帯別滞留人数>



滞留者の年齢階層

まちなかに集まっている人の年齢の特性としては、特定の年齢階層に偏っている訳ではなく、各年齢階層が集まっていると言えます。

<滞留者の年齢層>

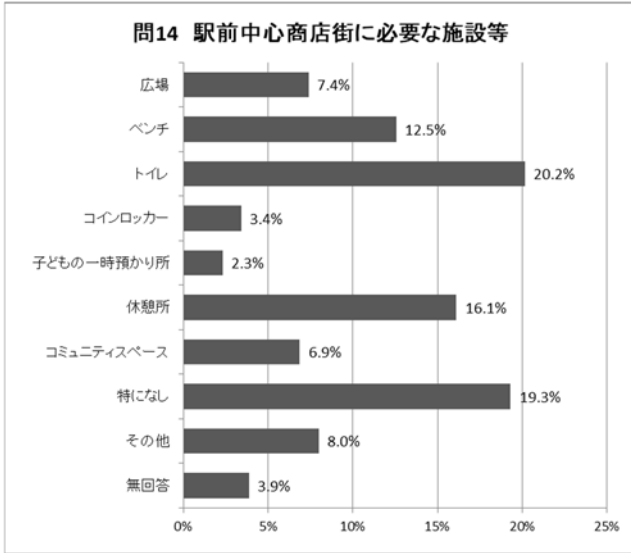


上記のことを踏まえると、平塚のまちなかは、多様な多くの人々が1日を通じて集まっているまちという特性が挙げられます。このような特性を踏まえて、集まっている人にまちなかで活動してもらうための取り組みを進めることが求められます。

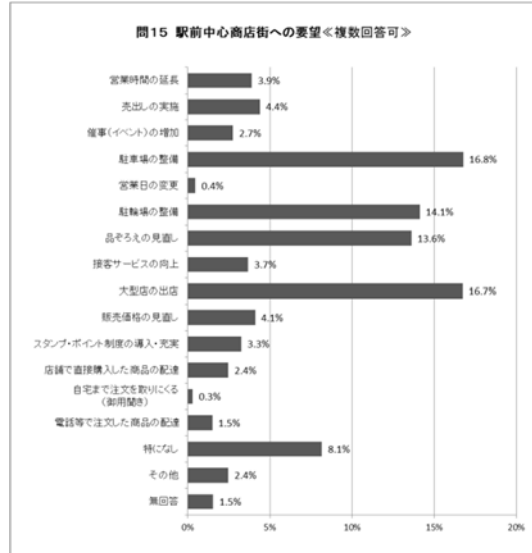
(4) 市民のニーズ

平塚市では、定期的に市民を対象に商業に関するアンケートを実施しています。その結果によると、まちなかへの施設ニーズや要望としては、トイレ、休憩施設、ベンチなどの設置や、大型店の誘致、駐車場・駐輪場の設置などの要望が挙げられています。

<必要な施設ニーズ>



<要望>



出典：商業アンケート調査報告書（平成29年度）

(5) 新しい動き

まちなかでは、近年、まちの活性化に向けて、まちゼミ、ひらつな祭、まちかどマルシェなど、地域が主体となる活性化に向けた取り組みが実施されています。また、見附台周辺地区では、平塚文化芸術ホールの整備が具体化し、新たな賑わいの拠点となることが期待されています。

<まちゼミの様子>



<まちかどマルシェの様子>



<ひらつな祭のポスター>



(6) 関係団体の協力

まちなかの活性化について、関係団体にヒアリングをした結果、東海大学の関心があることが分かりました。また、子育て世代のまちなかに対するニーズや期待も高いことが分かりました。

<ヒアリング結果>

関係団体等	ヒアリング結果
東海大学 (梶田研究室)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の研究の一環として、まちなかのまちづくりへ関わることが考えられる。 ・地域貢献の活動の一環として、まち活の支援が考えられる。
子育て世代 (集いの広場「もこもこ」 来訪者)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに対して、以下のようなニーズや期待の声を聞くことができた。 ・子どもと一緒に食事のできる場所や遊べる場所を望む声が多かった。 ・親子ヨガやお菓子教室、読み聞かせサークル等の活動の場がほしいというニーズがあった。 ・駅周辺の公園や広場に、小さい子ども向けの遊具等を望む声があった。 ・禁煙、きれいさ、安全性など、まちの雰囲気づくりを望む声があった。 ・授乳室、託児所、ママチャリが止められる駐輪場などの要望もあった。

(7) 社会実験・まちづくりの可能性

ロードマップを作成する過程で、平塚商業まつりと大門市において、市民から要望されている休憩スペースを設置する社会実験を実施しました。

多くの方々に休憩スペースを活用していただき、まちなかで滞留できる場の必要性や可能性を把握することができました。

〈大門市の滞留スペース（ひらつかまちなかピクニック）の様子〉



〈平塚商業まつり・大門市で実施したインタビューでいただいた主な意見〉

○まちなかに対する意見

- ・まちなかに、子どもの遊び場や子どもと一緒に行きやすいカフェやお店があると良い。
- ・子どもが安全に遊べる広場等が必要。既存の広場を安全にすることが必要。
- ・まちなかにどのようなお店があるのか、お店にどのような商品やサービスがあるのかが分かるようにすべき。
- ・子育て支援、高齢者支援の施設があると良い。

○イベントに対する意見

- ・イベント時に、今回のような子どもが遊べる場があると良い。

2. まちなかの活性化のステップ

まちなかのポテンシャル

平塚駅乗降客数は増加傾向にあります。一方で、まちなかの歩行者通行量は減少傾向にあります。

人口や乗降客数が増加しているのでまちの賑わいも増加するはずですが、ビッグデータの分析では他地区と比較しても集まっている人が多く、まちなかは潜在的なポテンシャルがあると言えます。頑張れば活性化の可能性があると考えられます。

古くなったまちのリニューアル

まちなかではビルや商店の建物が古くなっているものもあります。同様に、道路や公園などの都市基盤も古くなってきています。まちのリニューアルが必要になっていると言えます。

地域主体のまちづくりが始動

まちゼミ、ひらつな祭、まちかどマルシェなどの活性化に向けた取り組みが始まり、活性化の機運が見えています。このような動きを活かすことが活性化に繋がります。

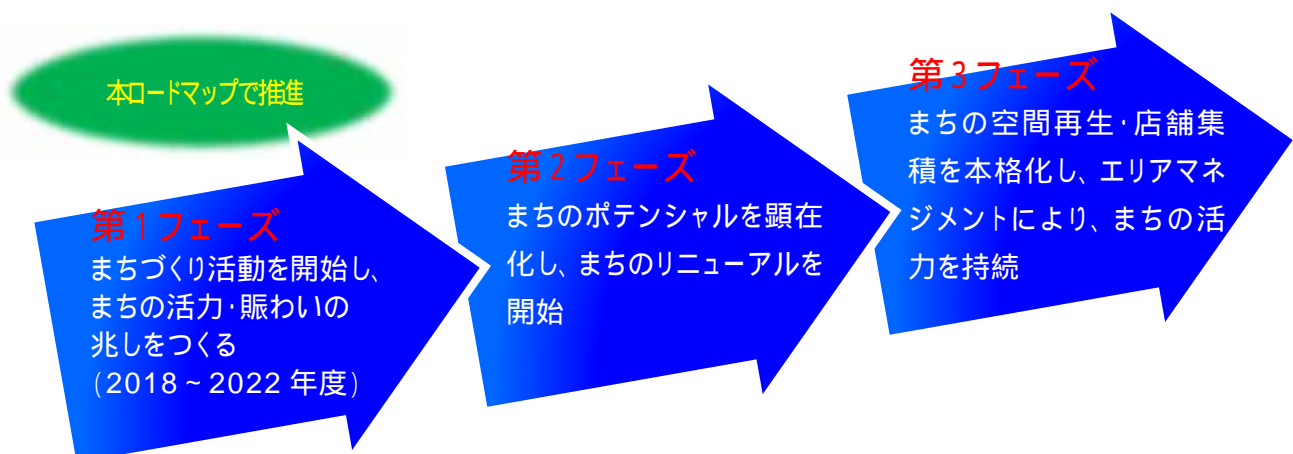
まちづくりの戦略的なステップ

持続可能な活力を備えた“まちなか”にしていくためには、小手先の活動やリノベーションではなく、まちなかを大きく変えていく必要があります。

ただし、すぐに民間の大規模な再開発を誘致することや、公共施設を立地させることなどはできない状況です。

まずは、まちの活力回復の機運を高め、その後、民間主導の開発を段階的に促進していくようなまちづくりのステップを展開します。

2022年度までを第1フェーズとして、地域主体のまちづくり活動によりまちの活力を取り戻すこととし、本ロードマップでまちづくりを推進します。



3. 活性化の目標

“まちなか”が平塚市の顔として、全市的な活性化の先導役になることを目指して、活性化の目標を設定します。

第1フェーズを推進する本ロードマップでは、以下の4つの目標を設定します。

目標A 歴史を感じられるまち <まちのPR>

まちなかのアイデンティティを確立します。やはり、“歴史”がこのまちの特徴なので、市民、来訪者など多くの方が、ひらつかの歴史を実感できるようなまちをめざします。

【2022年度時点でめざす目標水準】

市民アンケートで歴史を感じられるという意識UP
来街者アンケートで歴史を感じられるという意識UP
小学生へのアンケートで歴史を感じられるという意識UP
小学生への歴史クイズで正答率UP

目標B 人が集まる・集まりやすいまち <集客>

まちなかをサードプレイス、つまり、自宅、職場・学校に次ぐ3番目の居心地の良い場と認識してもらい、多くの市民等に集ってもらい、気軽に過ごしてもらえよう賑わいのあるまちをめざします。

【2022年度時点でめざす目標水準】

歩行者交通量増加
滞在時間の増加
立ち寄り店舗数の増加
市民アンケート「人が集まりやすさ」の満足度UP

目標C 商業者のネットワークが強いまち <連携>

個々の商店とともに、商店街・商業地全体でまちの魅力を発揮できるように、商業者のネットワークの強化をめざします。

【2022年度時点でめざす目標水準】

新規出店者数 10件
商業者意識調査での景況感UP

目標D 機能更新が進むまち <まちのリノベーション>

見附台周辺地区の開発などの都市開発を推進し、まちの機能更新が円滑に進むように、都市開発とまちづくりの連携を進めていきます。

【2022年度時点でめざす目標水準】

将来に向けたまちの開発・更新に関する懇談会の実施（年1回以上）
見附台周辺地区の開発事業者とまち活の懇談会の実施（年1回以上）

第3章 戦略とまちづくり活動

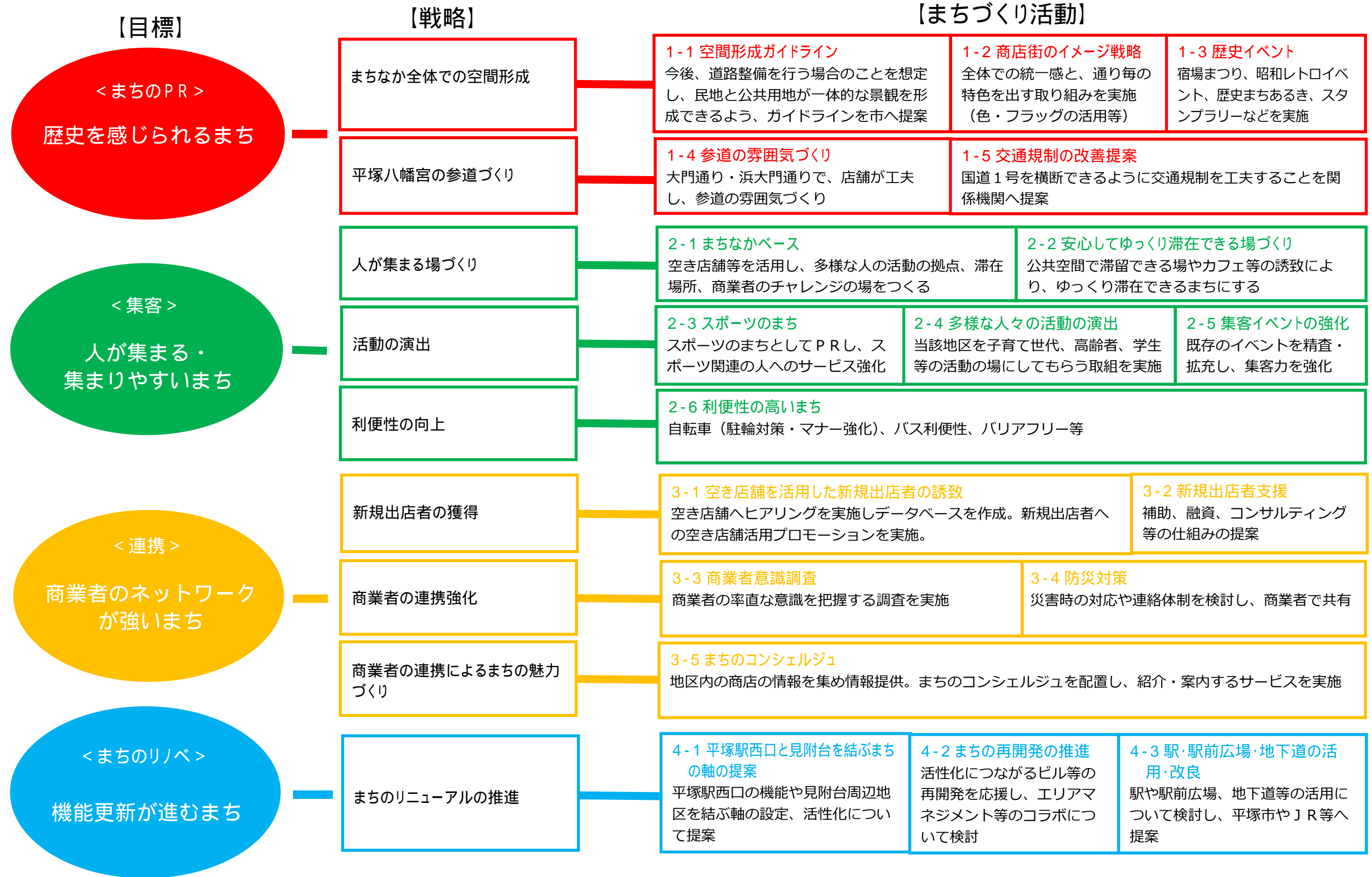
先に設定した4つの目標を達成するための「戦略」と戦略に沿った「まちづくり活動」を位置づけます。

まちづくり活動ごとに、活動内容、実施主体・体制、事業費・財源、スケジュール等を設定します。

事業費・財源については、平塚市の協力のもとで確保する活動費とともに、補助金等を活用して確保することを想定します。

なお、実施主体のグループA、B、C、Dは、まち活内に、目標ごとに設置する部会のことです。

目標・戦略・まちづくり活動の全体像



目標A 歴史を感じられるまち

戦略 まちなか全体での空間形成

まちなか全体、通りごとに統一感のある空間形成や、その空間にあった雰囲気づくりをすることにより、歴史性をアピールしていきます。

<まちづくり活動>

- 1-1 空間形成ガイドライン
- 1-2 商店街のイメージ戦略
- 1-3 歴史イベント

戦略 平塚八幡宮の参道づくり

これまで大門通り、浜大門通りでは、平塚八幡宮の参道づくりの活動を進めてきました。これらの活動を踏襲し、さらに参道の雰囲気づくりを進めます。

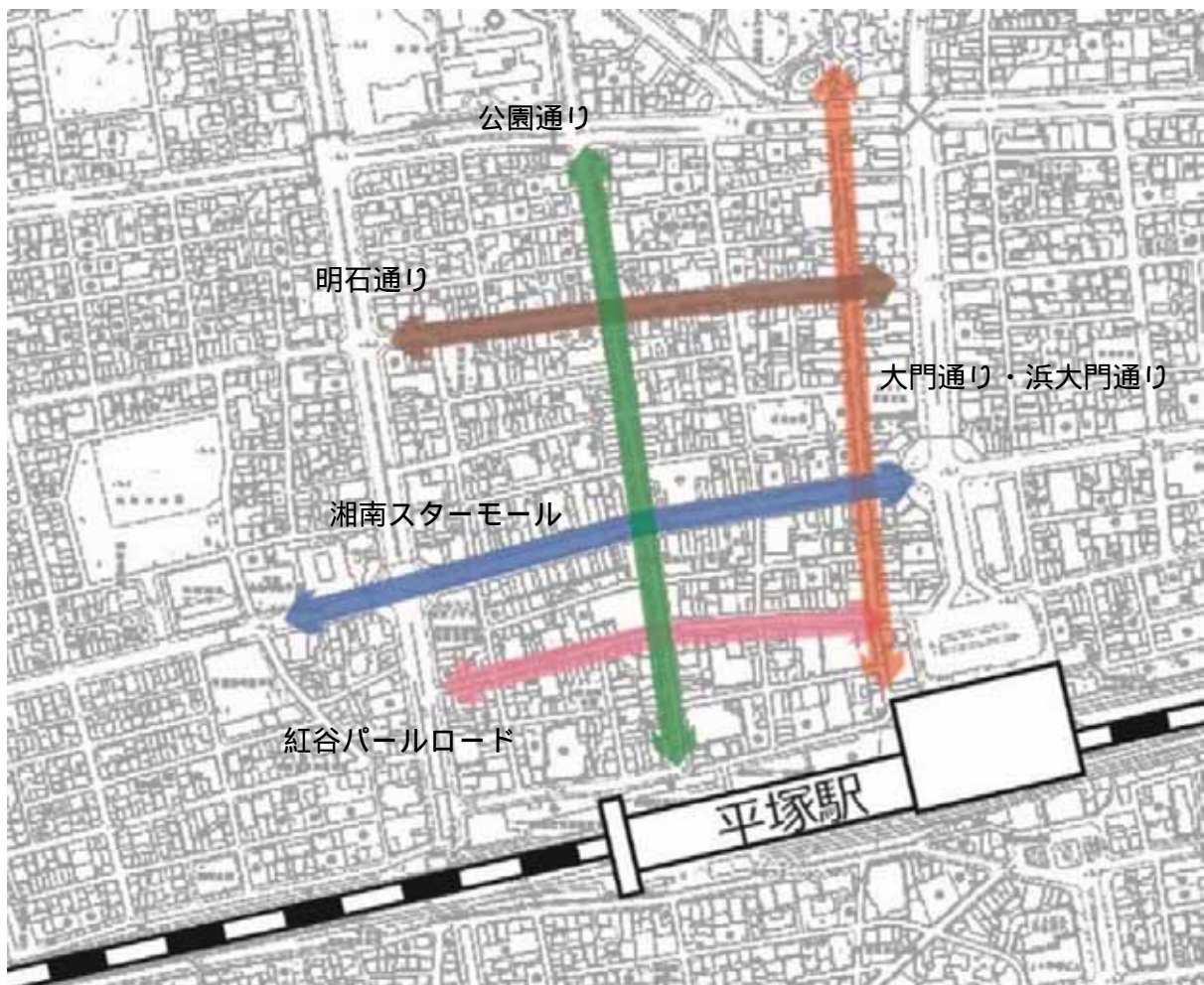
<まちづくり活動>

- 1-4 参道の雰囲気づくり
- 1-5 交通規制の改善提案




1 - 1 空間形成ガイドライン (STREET PRIDE)	
目的・効果	<p>まちなか全体で統一感のある歴史的雰囲気形成するとともに、“通り”ごとの特徴を創り出し、まちの魅力・誇りを創出する。</p> <p>今後、道路整備などを行う場合のことを想定し、民地と公共用地が一体的で良好な空間を保全・形成できるよう、空間形成ガイドラインを作成し、市へ提案する。</p>
活動キーワード	景観 道路空間 市民提案 長期的対応
事業内容	<p>市が道路整備する際に、地域にあった良好な街並み形成や快適な歩行空間等が形成されるように、通りごとに、空間形成ガイドラインを作成し、市へ提案する。</p> <p>空間形成ガイドラインの作成過程では意見交換会を開催し、市民の意見を広く聞く機会を設ける。</p> <p>空間形成ガイドラインには下記の項目について記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆道路の舗装について ◆道路上の構造物（電柱や街灯等）について ◆縁石について ◆道路の用途について ◆沿道の建築物の形態・意匠について ◆沿道の建築物の塀・柵・門等について ◆沿道の建築物の用途について ◆まちの空間について ◆整備の手順について <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>空間形成ガイドラインの記載例</p> <p>例 道路の舗装について</p> <p>道路の舗装は通りごとに統一感のあるものとする。</p> <p>例 沿道の建築物の形態・意匠について</p> <p>通りの雰囲気に合わせて、建築物等の形態・意匠を検討し、建て替え等に合わせて順次、統一的な街並みづくりを進める。</p>
実施主体・体制	<p>検討メンバー グループA【歴史を感じられるまち】</p> <p>まち活がガイドラインのフォーマットを検討。</p> <p>まち活と対象の通りの関係者が集まり、ガイドラインを検討。</p>
事業費・財源	<p>ガイドラインの作成においては費用無し。</p> <p>空間形成においては行政と民間の役割分担を検討。</p>
スケジュール	<p>2019年度にまちなか全体の方針とガイドラインのフォーマットを検討。2019年度から通りごとの検討を開始。2022年度までに主な通りごとのガイドラインを作成する。作成後、通りごとに順次、市へ提案。</p>

<空間形成ガイドラインを検討する通りの例>



1 - 2 商店街のイメージ戦略

目的・効果	2019年度から、通り、商店街のイメージ戦略を開始し、通り毎に特徴を出し、お客様に分かりやすいまちなかをつくる。
活動キーワード	統一感 多店舗参加 スピーディー 継続
事業内容	<p>短時間に早急な街並み形成や道路空間整理は難しいため、できることから取り組みを進めることとし、共通の機材を並べることにより、統一感のある雰囲気を作る。</p> <p>“通り”を単位として、イメージカラーを設定し、まちなか全体では同一のモノ（機材）、通りでは色で統一する。</p> <p>活動の例</p> <p>例 通り毎のペナント・フラッグの設置</p> <p>湘南スターモールでは、歩道上にペナント・フラッグを設置して通りの統一感を演出している。このような活動を、他の通りにおいても実施し、通りごとの特徴を出すことが考えられる。</p> 
実施主体・体制	企画・デザイン グループA【歴史を感じられるまち】 実施 参加商店会（できるだけ多くの商店会の参加を募る）
事業費・財源	1枚約8千円 商店会ごとに枚数を積算。 （商店会負担、一部2019年度活動費で補填）
スケジュール	2019年度はできることから取り組みを進めることとし、徐々にグレードアップする。

1-3 歴史イベント

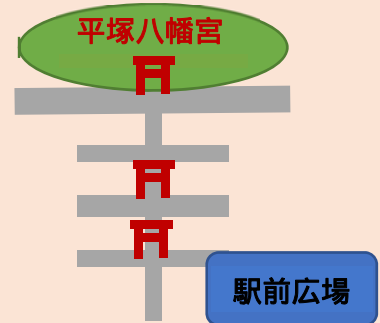
目的・効果	平塚八幡宮の参道や旧東海道がある立地を活かした歴史イベントを開催し、地域の方が歴史を感じられる機会を創出する。
活動キーワード	参道 街道 東海道 宿場町 歴史 イベント
事業内容	<p>地域の方々に地域の歴史的背景を知ってもらうため、歴史にまつわるイベントを開催する。</p> <p>子どもから大人まで参加できるイベントとし、幅広い世代に歴史を感じてもらう。</p> <p>活動の例</p> <p>例 平塚宿場まつり</p> <p>平塚宿があった旧東海道沿道で、宿場町のにぎわいを再現するお祭りを開催する。</p> <p>例 昭和レトロイベント</p> <p>各店舗にまつわる昭和の風情を感じるものを店先に展示し、まち全体で昭和レトロの雰囲気を作る。</p> <p>例 歴史まち歩き</p> <p>地域の歴史についての解説を聞きながらまち歩きをするイベントを実施する。</p> <p>例 歴史スタンプラリー</p> <p>平塚宿江戸見附跡等、歴史を感じられる場所にスタンプを設置し、スタンプラリーを実施。あわせて歴史の説明や歴史クイズも実施する。</p>
実施主体・体制	<p>企画 グループA【歴史を感じられるまち】</p> <p>実施・運営 商店会、グループA</p>
事業費・財源	<p>県や市の補助金の活用を検討。</p> <p>イベントの開催毎に地域企業から協賛金を集め、参加者から参加費を集める。</p>
スケジュール	「1-1 空間形成ガイドライン」、「1-2 商店街のイメージ戦略」の効果踏まえて、2020年度以降に実施。

<大磯宿場まつりの事例>



1-4 参道の雰囲気づくり



目的・効果	平塚八幡宮の参道である大門通りと浜大門通りで、店舗が工夫し、参道としての歴史的雰囲気を形成する。
活動キーワード	参道 鳥居 多店舗参加
事業内容	<p>平塚駅北口から参道の位置が分かりやすくなるように、参道らしい雰囲気を創る。</p> <p>平塚八幡宮の参拝客が参道を通ることで、歴史を感じられるようにする。</p> <hr/> <p>活動の例</p> <p>例 鳥居の設置</p> <p>初めて来た方にも参道の位置が分かるように、駅からの入口となる浜大門通りと大門通り入口に鳥居を設置し、参道の雰囲気を形成する。</p> <p>設置に向けて関係機関と調整する。</p> <p>例 参道らしい雰囲気づくり</p> <p>沿道の店舗は休業日でもシャッターを降ろさないでウインドーショッピングができるようにし、お店が建ち並ぶ賑わいのある参道の雰囲気を演出する。</p> <p>参拝客が気軽に立ち寄れるお店を点在させる。</p> <p>店先にのれんや縁台、和傘等を設置し、参拝客をもてなす。</p>
実施主体・体制	<p>企画・デザイン グループA【歴史を感じられるまち】</p> <p>実施 大門通りと浜大門通り沿道の参加店舗</p>
事業費・財源	<p>例① 鳥居を設置できないか関係機関と調整費用については、県や市の補助金の活用を検討。</p> <p>例② 店先ののれんや縁台等の購入費は参加店舗が自費で購入</p>
スケジュール	「1-1 空間形成ガイドライン」、「1-2 商店街のイメージ戦略」の効果を踏まえて、2020年度以降に実施。



＜島根県出雲市の事例＞



1 - 5 交通規制の改善提案

<p>目的・効果</p>	<p>参道から国道1号を横断してまっすぐ平塚八幡宮に行くことができるようにするため、国道1号の交通規制を工夫することを関係機関に提案する。</p>
<p>活動キーワード</p>	<p>参道 国道1号 交通規制 市民提案</p>
<p>事業内容</p>	<p>現在、平塚八幡宮前の国道1号は元旦のみ横断できることとなっている。この日数を増やすことを目指して、警察等関係機関と調整する。</p> <p>交通規制の工夫の例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>現状</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>交通規制を工夫後</p>  </div> </div>
<p>実施主体・体制</p>	<p>関係機関との調整 グループA【歴史を感じられるまち】</p>
<p>事業費・財源</p>	<p>提案のため費用無し。</p>
<p>スケジュール</p>	<p>「1-4 参道の雰囲気づくり」の成果を踏まえて2021年度以降に実施。</p>

目標B 人が集まる・集まりやすいまち

戦略 人が集まる場づくり

来街者が気軽に快適に滞在できる施設やスペースをつくります。

<まちづくり活動>

- 2-1 まちなかベース
- 2-2 安心してゆっくり滞在できる場づくり

戦略 活動の演出

まちなかで様々な人が活動できるように、イベント等を仕掛けていきます。

<まちづくり活動>

- 2-3 スポーツのまち
- 2-4 多様な人々の活動の演出
- 2-5 集客イベントの強化

戦略 利便性の向上

まちなかに来やすくなるように、利便性を強化します。

<まちづくり活動>

- 2-6 交通利便性の向上



2-1 まちなかベース

目的・効果	空き店舗を活用し、多様な人の活動拠点、滞留できる場所、商業者のチャレンジの場を備えたコミュニティハブをつくり、まちなかの賑わいの創出、全市的な活性化拠点をつくる。
活動キーワード	活動拠点 チャレンジの場 交流
事業内容	<p>まちなかで空き店舗を借り、社会実験として拠点施設を運営。通りに面した空き店舗を活用し、集まりやすい拠点とする。様々なプログラムを演出し、この拠点から活動が生まれていくことをめざす。</p> <p>活動の例</p> <p>1. 賑わいの創出</p> <p>①毎日まちゼミ まちなかのお店、市内のお店が交代で、まちゼミプログラムを提供、賑わいの核にする</p> <p>②カフェ誘致 長い時間滞留できるカフェを運営</p> <p>2. 子育て世代の活動拠点</p> <p>③サークル 子育て世代、高齢者等の活動の場を提供</p> <p>④寺子屋 子どもに勉強を教える活動の場を提供</p> <p>⑤子ども食堂 食育の一環として、子どもに食事を提供</p> <p>3. 学生の活動拠点</p> <p>⑥自習の場 無料で高校生の勉強の場を提供</p> <p>⑦スタジオ 音楽、ダンスのスタジオ</p> <p>⑧研究実践拠点 大学生の研究の場、成果の発表の場</p> <p>4. チャレンジ・企業PRの場</p> <p>⑨チャレンジショップ^o 新規出店者の試験店舗</p> <p>⑩商店PR 既存商業者が新規事業等をPRする場</p> <p>⑪工業PR 市内の工業系企業のデモンストレーションの場</p>
実施主体・体制	<p>企画 グループB【人が集まる・集まりやすいまち】</p> <p>内装 大学生等のサポートのもと、まち活で実施</p> <p>運営 グループB（プログラム実施者等の募集等）</p>
事業費・財源	<p>予算 イニシャルコスト 200~300万円</p> <p>ランニングコスト 150~200万円/年</p> <p>財源 2019年度活動費をもとに行政等の補助金で補填</p>
スケジュール	<p>2019年度の早い時期にまちなかベースを設置することをめざす。</p> <p>4~5月 物件選定・契約</p> <p>5~7月 内装等整備</p> <p>7~8月 運営開始</p> <p>2019年度から2022年度まで運営を継続する。</p>

<コミュニティの拠点となるスペースの事例>

二宮町 コワーキングスペース
shareffice THE CAMP



コワーキングスペースと
カフェを運営(民間事業者が経営)



大手町 3×3Lab


コワーキングスペースとイベントスペースの貸し出し
エリアマネジメント組織が経営



川崎市 鹿島田 DAYS コワーキングカフェ
コワーキングスペースとコミュニティカフェ
エリアマネジメント組織が経営



2 - 2 安心してゆっくり滞在できる場づくり

目的・効果	公共空間で滞留できる場やカフェ等の誘致により、ゆっくり滞在できるまちに改造し、来訪者の滞在時間を拡大する。
活動キーワード	楽しめる空間 オープンスペース 適正配置
事業内容	<p>湘南スターモール、紅谷パールロード、大門通り、公園通りなどを基軸に広場や公園、道路空間、空き店舗等を活用して滞留空間を設置するとともに、居心地が良くなるような工夫をする。</p> <p>安全性が高く、子どもが安心して遊べる、大人が心地よく休めるオープンスペースづくりを行う。</p> <p>空き店舗等を活用して新規のカフェを誘致し、交流の場を創る。</p> <p>活動の例</p> <p>例 休憩スペースの設置</p> <p>道路の一部や店舗の空きスペース等にストリートファニチャー等を設置し、誰もが休憩やおしゃべりなどを楽しむことができるプレイスをつくる。</p> <p>イベント等にあわせて試験的に休憩スペースを設置し、効果を把握しながら恒久的な整備を検討する。</p>  <p>例 広場・公園のリニューアルに関する提案</p> <p>紅谷町まちかど広場や新宿公園などのリニューアルについて、市や関係機関へ提案を行っていく。</p> <p>例 カフェの誘致</p> <p>空き店舗を活用し、市民に親しまれるカフェを誘致し、まちなか全体で滞在できる機能を拡充していく。</p> <p>まちなかベースやイベント等での試験的なカフェ開店の機会を提供し、出店者を募る。</p>
実施主体・体制	グループB【人が集まる・集まりやすいまち】
事業費・財源	当面は試験的な運用とし、予算を掛けずに手持ちの機材で対応。
スケジュール	2019 年度に滞留スペース配置計画を作成し、社会実験として2022 年度まで継続して実施。

2 - 3 スポーツのまち

目的・効果	湘南ベルマーレのホームタウンという特性を活かし、スポーツのまちのイメージをつくり、まちの魅力をアップする。
活動キーワード	湘南ベルマーレ 身近なスポーツ 聖地化
事業内容	<p>スポーツの観戦客、スポーツをする人に対してサービスを充実させることで賑わいを創出する。</p> <p>活動の例</p> <p>例 湘南ベルマーレの聖地化</p> <p>毎年実施している「ベルマーレワンダーランド」(Jリーグ開幕前の出陣式)をさらに盛り上げるためにPRを拡充する。</p> <p>湘南ベルマーレの観戦客に対してサービスを実施する店舗を増やし、まちなかへの誘客を図る。</p> <p>水曜日を定休日としている店舗が多いが、湘南ベルマーレの試合がある水曜日に営業する店舗を増やすキャンペーンを実施する。</p> <p>例 スポーツを身近に体験できるまち</p> <p>まちなかで身近にスポーツを体験できる仕組みづくりを行う。例えば、公園や広場に卓球台やバスケットゴール、体力づくり器具などを置くことが考えられる。</p> <p>スポーツバーを誘致し、スポーツ好きの人が集まれるまちなかを演出する。まずは、オープンスペースやまちなかベースを活用した活動から始める。</p>
実施主体・体制	企画 グループB【人が集まる・集まりやすいまち】
事業費・財源	まちなかでの共有の機材となるため、補助金等を確保する。 例 卓球台 3万円 バスケットゴール 10万円
スケジュール	2020年度以降に実施し、2022年度までに継続。 他の活動を優先し、その効果が得られた段階で実施。



2 - 4 多様な人々の活動の演出

目的・効果	まちなかで活動する人、団体を増やすことにより、賑わいを増加させる。
活動キーワード	場の提供 サークル活動 多様な主体
事業内容	<p>不特定多数の人が、まちなかで活動を行えるような場（施設やイベント等）を確保し、PRする。</p> <p>①見附台の新文化センター（平塚文化芸術ホール） ②ひらつか市民プラザ ④まちなかベース ⑤紅谷町まちかど広場</p> <p>まちなかでのサークル活動等を行う団体に呼びかけ、まちなかをホームグラウンドにしてもらう。</p> <p>①子育て世代 ②高齢者 ③高校生・大学生 ④市内立地企業 ⑤市民活動団体</p> <p style="text-align: center;">まちなかで活動する人を増やす = 賑わい</p>  <p>市内の団体とのネットワークをつくり、PRを行う。 既存イベントにおいて、団体とのコラボによる活動を実施する。</p>
実施主体・体制	企画・各団体との調整 グループB【人が集まる・集まりやすいまち】
事業費・財源	既存イベント等でのコラボなので予算無し。
スケジュール	2019年度から開始し2022年度まで継続。 「2-1 まちなかベース」の開設とともに、当該活動を並行して推進。

2 - 5 集客イベントの強化

目的・効果	これまで実施してきたイベントを検証し、より効果の高いものに拡充する。
活動キーワード	メリハリ 集中 相乗効果 提案
事業内容	<p>本ロードマップに沿ったまちづくり活動を実施していく中で、まちの活性化の視点から、これまで実施してきたイベント等を検証する。</p> <p>さらに、より効果の高いものにするために、イベントのコラボによる相乗効果や、年間スケジュール等を検討し、関係団体へ提案する。</p>
実施主体・体制	<p>検証・拡充方策の検討</p> <p>グループB【人が集まる・集まりやすいまち】</p>
事業費・財源	検証・拡充方策の検討なので予算無し。
スケジュール	2021年度までの活動を検証した上で、2022年度に実施。

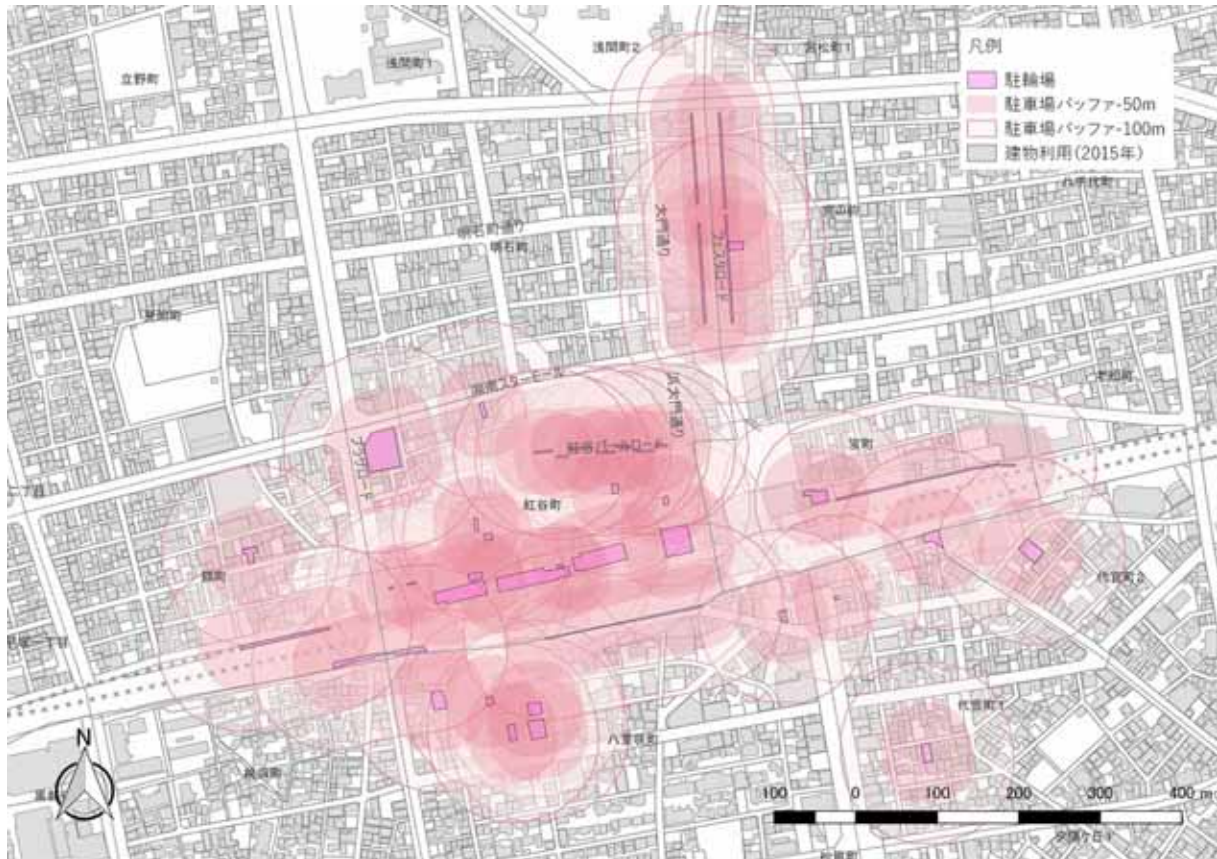
2 - 6 交通利便性の向上

目的・効果	まちなかで人が集まりやすく、買物がしやすい環境を備えるために、アクセスのしやすさを強化することとし、総合的な視点から交通利便性を確保する。
活動キーワード	自転車 交通アクセス バリアフリー 市民提案
事業内容	<p>自転車の違法駐輪対策やマナー向上キャンペーンを実施。 自転車にて来店される方用に駐輪スペースを確保。社会実験等によるデータ収集、効果分析を行いながら、関係機関と協力して具体策を実施。 バス事業者との連携を検討。 関係機関にまちなかのバリアフリー化を推進するための提案。</p> <p>活動の例</p> <p>例 駐輪対策 誰もが安心して店先や店舗間を移動できる空間を確保できるよう、自転車にて来店される方用に駐輪スペースを確保し、利用してもらおう。駐輪スペースは店舗へのアクセスの良い場所とし、自転車利用者の利便性も確保する。</p> <p>例 自転車のマナー強化 自転車の交通ルール遵守とマナー向上を促進する声かけキャンペーンの実施。 イベント時に自転車の乗り方教室のブースを設置。</p> <p>例 バス事業者との連携 神奈川中央交通にヒアリングし、バスで来訪した買い物客へのサービスが実施できるか検討。 バスでの来訪者向けの案内マップを作成し、バス車内に配置。</p> <p>例 バリアフリー まち歩きをして重点的にバリアフリー化を進めるべき場所を抽出し、市等関係機関に提案。 バリアフリー化された箇所、経路をきめ細かく掲載したまちなかのバリアフリーマップを作成。</p>
実施主体・体制	企画・検討 グループB【人が集まる・集まりやすいまち】 人員募集 グループB（キャンペーンやまち歩き等の人員募集）
事業費・財源	マップ作成 活動費を充当
スケジュール	2019年度から駐輪対策を検討。その後、キャンペーンを実施。 2019年度にバス事業者との連携、バリアフリーについて検討し、関係機関へ提言。

〈駐輪スペースの状況〉

まちなかの駐輪スペースから50mと100mの円を描いてみました。

駐輪スペースから遠い商店会もあります。



目標C 商業者のネットワークが強いまち

戦略 新規出店者の獲得

新規出店者を誘致し、空き店舗や空き地を減らすとともに、お客様のニーズにあった商店街づくりを行います。

<まちづくり活動>

- 3-1 空き店舗を活用した新規出店者の誘致
- 3-2 新規出店者の支援

戦略 商業者の連携強化

商業者の意識の共有を図るとともに、日常的な勉強や情報交換を推進し、商業者の連携を強化します。

<まちづくり活動>

- 3-3 商業者意識調査
- 3-4 防災対策

戦略 商業者の連携によるまちの魅力づくり




商業者の連携によるまちの活性化策を実施し、商業のまちをアピールします。

<まちづくり活動>

- 3-5 まちのコンシェルジュ



3 - 1 空き店舗を活用した新規出店者の誘致

<p>目的・効果</p>	<p>新規出店者を増加させることにより、商業のまちとしての機能を拡充する。 空き店舗が減ることにより商店街の連続性の確保や活気のある雰囲気づくり、新規出店者によるまちの変化が期待される。</p>
<p>活動キーワード</p>	<p>賑わいに資する店舗 新業種 商店街の機能更新</p>
<p>事業内容</p>	<p>空き店舗の所有者へヒアリングを実施し、貸すことのできる店舗のデータベースを作成する。 一方で、他地区や近隣市へ出店している人気店へヒアリングを行い、立地を決めた理由、平塚のまちなかのイメージ等を把握する。 新規出店者を集めるためのプロモーションを実施し、新規出店者を獲得する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>空き店舗のデータベース作成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>誰が、どのような条件で貸すつもりがあるか整理</p> </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>他地区・近隣市の新規出店者へヒアリング</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">   <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 15px; background-color: #fff9c4; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">まちなかのメリットをアピールし 新規出店者を誘致 (ホームページ、SNS、クチコミ等でPR)</p> </div> </div>
<p>実施主体・体制</p>	<p>企画・検討・データベース作成・ヒアリング・プロモーション グループC【商業者のネットワークが強いまち】</p>
<p>事業費・財源</p>	<p>予算を掛けずに実施。</p>
<p>スケジュール</p>	<p>2019年度は空き店舗のデータベース作成・ヒアリングを実施。 2020年度からプロモーションを実施。</p>

3 - 2 新規出店者の支援

目的・効果	新規出店者への支援を行い、まちなかへの新規出店を促進することが、まちの活性化につながる。
活動キーワード	初動期支援 ノウハウ支援 金銭的支援
事業内容	<p>新規出店者にとって、開店時の初動期が大変である。そのため、開店資金等の補助・融資等により、新規出店を促進することにつながる。</p> <p>また、まちなかの来街者等の特性や経営的なノウハウを伝授するためのコンサルティングも有効である。</p> <p>新規出店者に必要な支援策を検討し、その実施について、関係機関へ提案する。</p>
実施主体・体制	検討 グループC【商業者のネットワークが強いまち】
事業費・財源	予算を掛けずに実施。
スケジュール	「3-1 空き店舗を活用した新規出店者の誘致」の効果を踏まえて、2020年度以降に検討し、関係機関へ提案。

3 - 3 商業者意識調査

目的・効果	まちなかの商業者へ意識調査を実施しニーズを把握するとともに、アンケート結果を分析することにより、まちなかの活性化につなげる。
活動キーワード	ニーズ収集 分析
事業内容	平塚市では「平塚駅周辺地区活性化ビジョン」の策定に向けて、商業者を対象としたアンケートを実施した。 今後も定期的に、商業者の率直な意識を把握するための調査を実施することが考えられる。 調査項目等を検討し、平塚市と協力して実施する。
実施主体・体制	検討 グループC【商業者のネットワークが強いまち】 実施 平塚市と協力して実施
事業費・財源	予算を掛けずに実施。
スケジュール	計画期間最終年度（2022年度）にロードマップの検証を兼ねて実施。

3 - 4 防災対策	
目的・効果	災害時の備えとして、まちなか全体や商店街単位で防災対策を実施し、安全性が高いまちを実現する。
活動キーワード	連絡体制 避難 防災
事業内容	<p>災害への耐力があり安全性が高く、かつ災害時には地域が一体的に取り組むことにより、対応力の強い商店街をめざす。</p> <p>これにより、商業者・住民の安心感とともに、災害対応力の強い商店街をセールスポイントとして活性化を図る。</p> <p>必要に応じて、法に基づく地域防災計画の策定を検討する。</p> <p>災害時の連絡体制</p> <p>災害時に情報を入手し、商業者、地域住民、来街者へ伝えることが必要になる。大規模災害時には通信による情報入手は難しい場合もあることから連絡体制づくりが必要になる。</p> <p>市役所等から情報を入手し、効率的に伝達する方法を検討する。</p> <p>避難誘導</p> <p>事前に避難場所、避難経路を検討し、災害時には的確に誘導するための計画、役割を検討する。</p> <p>防災対策</p> <p>災害時にも強いまちにするための防災対策について検討する。</p>
実施主体・体制	検討 グループC【商業者のネットワークが強いまち】 アドバイス 平塚市から防災についてのアドバイスを受ける
事業費・財源	予算を掛けずに実施。
スケジュール	他の施策を実施した後に、それらを反映し 2021 年度以降に検討。

3 - 5 まちのコンシェルジュ	
目的・効果	<p>まちなかに立地する商店や公共公益施設等の情報を来街者に分かりやすく提供するために、まちのコンシェルジュを配置する。</p> <p>まちのホスピタリティを向上させることにより、来街者を増加させる。</p>
活動キーワード	<p>情報収集 案内 親切な対応</p>
事業内容	<p>商店や公共公益施設の情報収集を行い、データベースを作成。</p> <p>【情報収集の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開店時間帯・休業日 ○店舗の特色 ○商品やサービスの提供内容（イチオシ商品等） <p>以下の活動を実施する。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商店マップ作成・配布 ○個店同士のマッチング（共同事業） ○コンシェルジュ（まちなかベースに配置） ○外国人への案内 <div style="text-align: center;"> <p>まちなかの店舗・公共公益施設等の情報収集 (商品、サービス等)</p> </div>
実施主体・体制	<p>企画・検討 グループC【商業者のネットワークが強いまち】</p> <p>マップ作成・マッチング グループC</p> <p>コンシェルジュ まちなかベースの活動の中で雇用</p>
事業費・財源	<p>マップ作成 活動費を充当</p>
スケジュール	<p>2019年度にまちなかの商店等の情報収集・データベース化。</p> <p>2020年度以降からマップ作成・配布、マッチング、コンシェルジュ、外国人への案内等を実施。</p>

目標D 機能更新が進むまち

戦略 まちのリニューアルの推進

ソフトの活動に合わせて、現在のまちなかの古くなった建物や都市基盤のリニューアルを推進し、まちのグレードアップを図ります。

<まちづくり活動>

- 4-1 平塚駅西口と見附台周辺地区を結ぶまちの軸の提案
- 4-2 まちの再開発の推進
- 4-3 駅・駅前広場・地下道の活用・改良



出典：平塚市ホームページ

4 - 1 平塚駅西口と見附台を結ぶまちの軸の提案

<p>目的・効果</p>	<p>見附台の開発事業者が決まり、2021 年度の開業に向けて事業の具体化が進むこととなる。この開発はまちなかの活性化の起爆剤となることが期待されることから、まち活とのコラボを進めることで一層の賑わい増進をねらう。</p>
<p>活動キーワード</p>	<p>まちのリニューアル 連携 市民提案</p>
<p>事業内容</p>	<p>見附台周辺地区の位置関係から平塚駅西口との連絡性の強化が望まれるので、平塚駅西口の機能のあり方について市へ提案する。</p> <p>また、平塚駅西口から見附台周辺地区までの動線上の賑わい増進について、開発事業者等との懇談を進め、具体策を提案していく。</p> <p>さらに、見附台周辺地区とまちなか全体で連携を図り、活性化につなげる取り組みを、開発事業者と一緒に検討する。</p> <p>まち活と開発事業者、平塚市による懇談会を定期的を開催し、見附台周辺地区を核としたまちなかの活性化について意見交換し、地域側で実施できる活動を検討する。</p> <div data-bbox="459 1086 1369 1691" style="text-align: center;"> </div>
<p>実施主体・体制</p>	<p>企画・窓口 グループD【機能更新が進むまち】 懇談会等はまち活、もしくは意見交換会等で実施</p>
<p>事業費・財源</p>	<p>検討に係ることのため費用無し。</p>
<p>スケジュール</p>	<p>2019 年度以降、事業者との懇談会等を実施。 2021 年度の平塚文化芸術ホール開業時から活動を開始。</p>

4 - 2 まちの再開発の推進

目的・効果	<p>まちなかには、老朽化している商業ビルや店舗などが見受けられる。また、道路や広場、公園などもリニューアルすることが望まれるものがある。まちの建物や都市基盤の再開発を進め、時代にあったまちへ移行することをめざす。</p>
活動キーワード	<p>民間開発の推進 都市基盤の再整備</p>
事業内容	<p>ロードマップに即したまちづくり活動により、まちなかの活性化を進め、民間開発が進むようアピールをしていく。</p> <p>マンションだけではなく、店舗や事務所の開設が進み、まちなかの活性化につながるよう開発事業者へ提案していく。</p> <p>民間開発事業者からの要望がある場合には、まち活が中心となって懇談会を開催し、開発に対してニーズを伝えていくこととする。</p> <p>また、空間形成ガイドライン等をもとに、平塚市に対して、都市基盤の再整備について提案をしていく。</p> <p>まちのリニューアルに合わせて、まちなか全体のまちづくりをマネジメントするためのエリアマネジメントの事業・組織のあり方を検討する。</p>
実施主体・体制	<p>企画・窓口 グループD【機能更新が進むまち】</p> <p>懇談会等はまち活、もしくは意見交換会等で実施</p>
事業費・財源	<p>検討に係ることのため費用無し。</p>
スケジュール	<p>2019年度以降、事業者との懇談会等を実施。</p>

4 - 3 駅・駅前広場・地下道の活用・改良

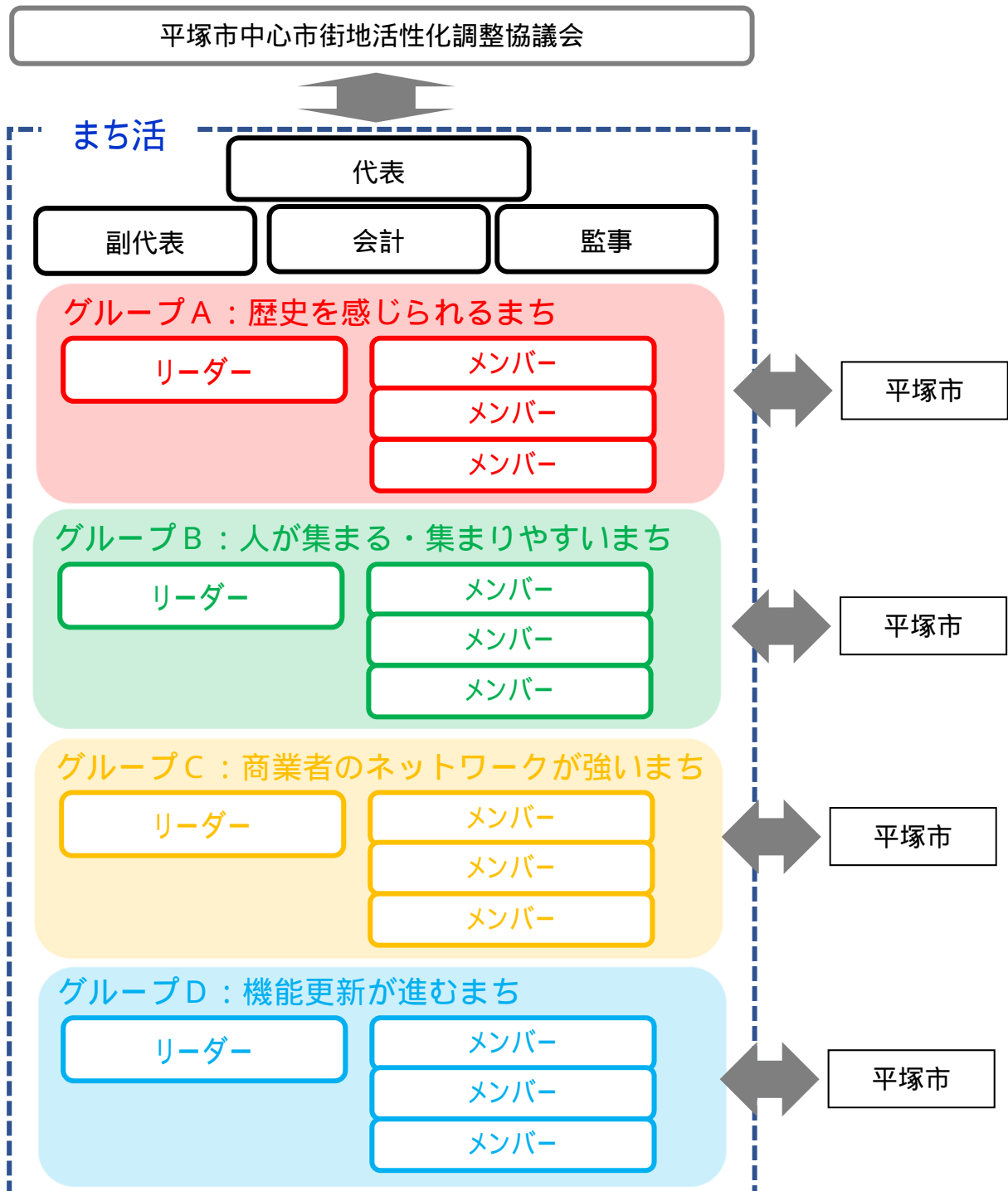
目的・効果	駅・駅前広場・地下道を有効活用することにより、まちの活性化につなげる。
活動キーワード	平塚駅 駅前広場 地下道
事業内容	<p>北口駅前広場や地下道を活性化の基盤として捉え、イベントの会場や情報提供や広告の掲示場所等の活用を行っていく。</p> <p>また、平塚駅西口についても駅前広場やイベント広場等の必要性を検討し、平塚市へ提案をしていく。</p> <p>エスカレータの設置など、駅施設の利便性向上についてJR等へ協力を求めている。</p> <p><茨城県牛久市の駅前広場（イベントスペースがある）></p> 
実施主体・体制	検討 グループD【機能更新が進むまち】
事業費・財源	検討に係ることのため費用無し。
スケジュール	他のまちづくり活動を進め、効果が見えた時点から、地域要望をまとめ、関係機関へ提案。

第4章 まちづくりの体制

1. 推進体制

ロードマップに基づき、まち活が推進団体となり、まちづくり活動を進めます。目標毎にグループ（部会）を設置し、まちづくり活動を実施していきます。

平塚市、平塚商工会議所、商店会等との連携・支援を受けながら、また、まちづくり団体や大学等との関係機関との連携のもと活動を進めていきます。



2. エリアマネジメントの方針

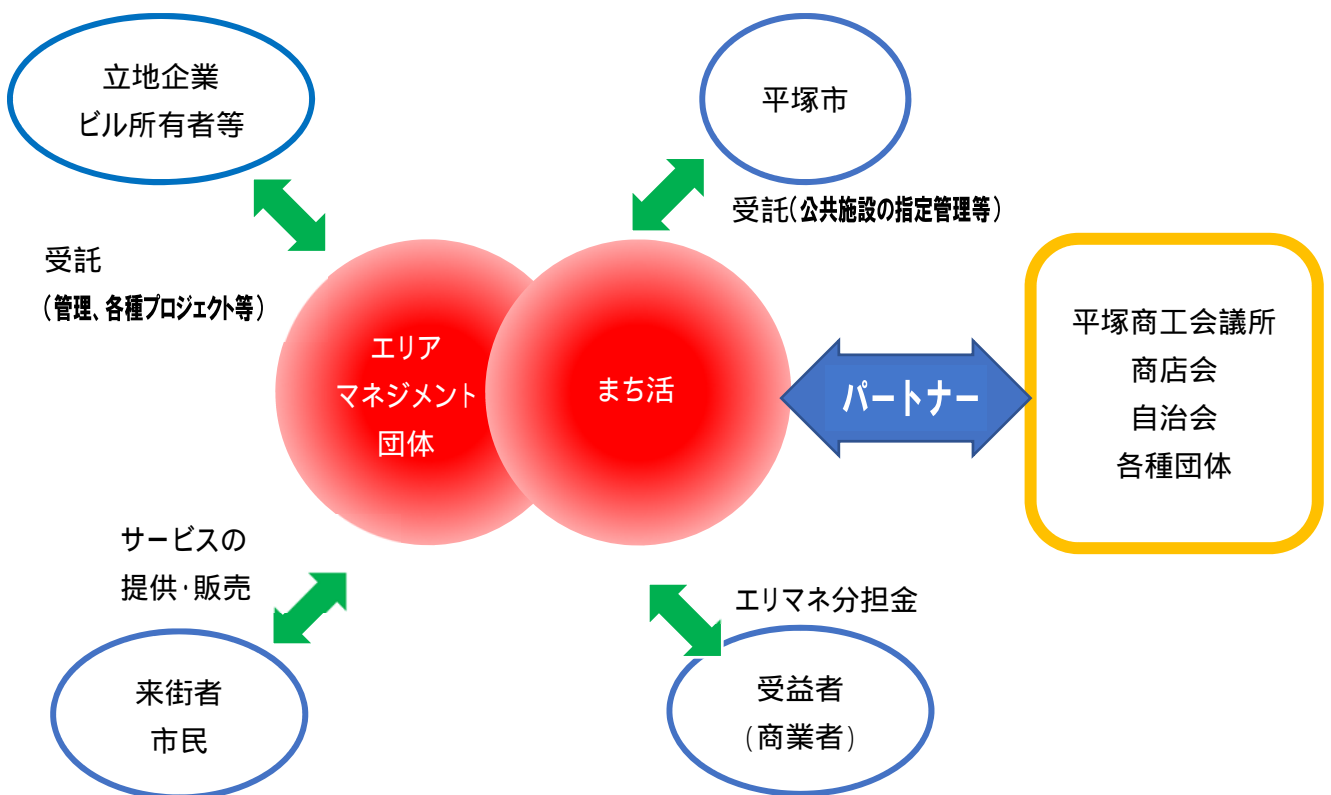
エリアマネジメントとは、特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行う取り組みです。

地域が主体となってまちづくり活動を実施していこうとするまちなかでは、活性化のためにエリアマネジメントが有効であり、かつ、まち活がエリアマネジメントに関わることを想定されます。

一方で、大都市では、行政機関や民間企業からの受託事業や、サービスの提供・販売、受益者からの負担金（エリマネ分担金）等によりエリアマネジメント団体が収入を得て、まちづくり活動を行うような事例が増えています。

本ロードマップに基づき、まちづくり活動を実践していく中で、エリアマネジメントの具体化や、まち活の役割（まち活自体がエリアマネジメント団体となるか、連携する別の団体を設立するか等）を検討していきます。

<エリアマネジメント団体のイメージ>



3. まちづくりの人材育成のスキーム

まちづくり活動を推進していく上では人材の確保が必要になります。まち活のメンバーを増やしながら、活性化に取り組めます。

(1) まち活の組織の強化

まちなかに店舗を有する商業者、まちなかの居住者、まちなかの活性化に意欲がある方へ声掛けし、まち活のメンバーを増やしていきます。

(2) まちづくりレクチャー

2018年度の意見交換会では、講師を招いて地域主体のまちづくりのレクチャーを実施しました。2019年度以降も定期的に、まちづくりレクチャーを開催し、まちづくりの知識を共有していきます。

<2018年度 第1回意見交換会のレクチャーの様子>



(3) まちづくり活動を行う団体等への支援

まち活は、まちなかでまちづくり活動にチャレンジしたいと考えている人やグループを対象に、まちづくり活動を提案してもらい、さらに、それらの方々が実践する段階においてアドバイス等の支援を行っていきます。

そして、このような提案活動を通じて、まち活のメンバーに加わることをお願いしていきます。

第5章 アクションプログラム

この章では、本ロードマップを実現するための事項をアクションプログラムとして設定します。

1. 活動スケジュール

先に示したとおり、まちづくり活動は多岐にわたり、活動数も多岐にわたります。

相互に関連する活動もあることを踏まえて、効果的に活動内容を組み立てていきます。

目標ごとに優先活動を設定し実施していきます。優先活動から他の活動へ波及をめざし、場合によっては活動内容の改良や変更等を行いながら進めていきます。

(1) 歴史を感じられるまちの進め方

まず通りごとに計画（空間形成ガイドライン）を作成し、この計画に沿って波及活動を実施していきます。ただし、計画づくりには期間を有することが想定されるため、早期に、まちの活性化の兆しをつくるために、2019年度から商店街のイメージ戦略を進めていきます。

【優先活動】

1-1 空間形成ガイドライン
最初に通りにごとのプランを作成

1-2 商店街のイメージ戦略
まちの活性化の兆しをつくるため
2019年度からイメージ戦略を開始

【波及活動】

1-3 歴史イベント

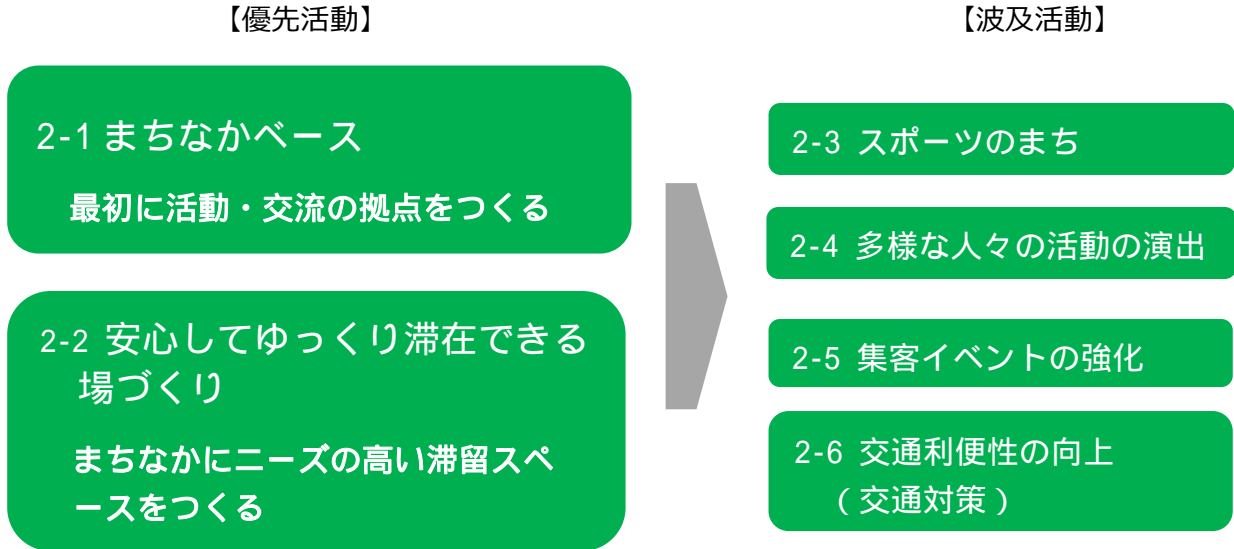
平塚八幡宮の参道の雰囲気づくり

1-4 参道の雰囲気づくり

1-5 交通規制の改善提案

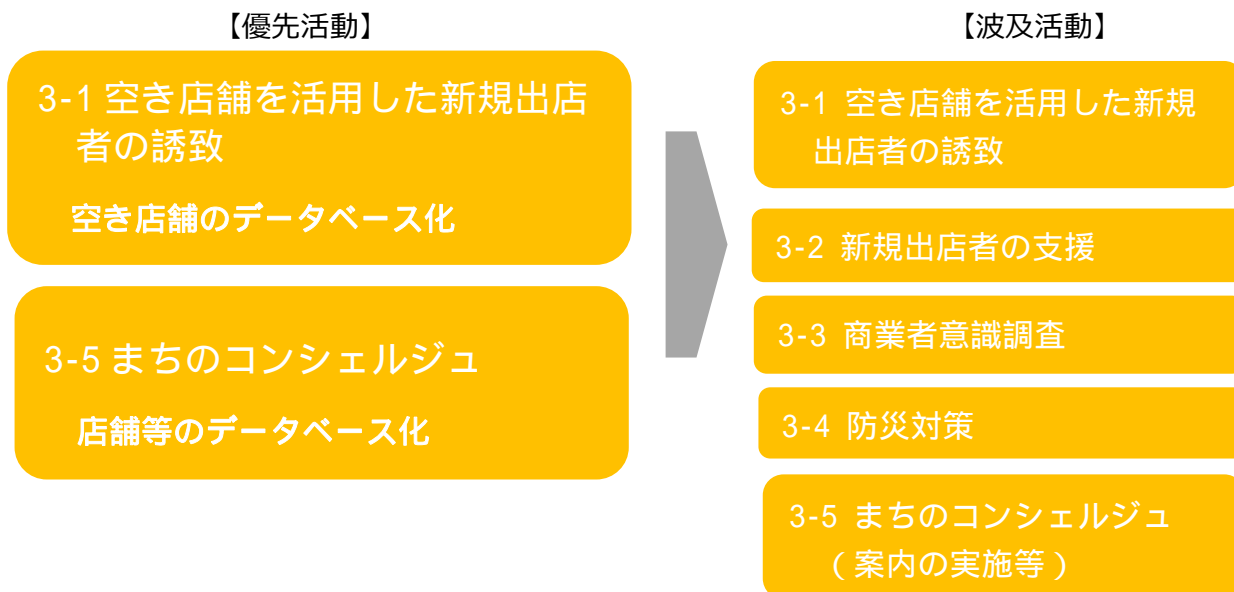
(2) 人が集まる・集まりやすいまちの進め方

最初にまちなかベースや公共空間の中での滞留スペースづくりを行い、まちなかに活動・滞留・交流の場をつくります。場を作ったうえで、波及活動を実施していきます。



(3) 商業者のネットワークが強いまちの進め方

最初に、空き店舗を活用した新規出店者の誘致、まちのコンシェルジュの双方の活動を開始します。空き店舗とまちなかの店舗の情報を収集し、データベースを作成し、その後、波及活動を実施していきます。



(4) 機能更新が進むまちの進め方

機能更新が進むまちは、他の目標と異なり、他の主体が進める事業に対して、まちの活性化の視点から意見交換を行ったり、提案を行う等の活動です。

事業の動きがあった時点で、随時、活動を進めていくこととします。

4-1 平塚駅西口と見附台を結ぶまちの軸の提案
(見附台周辺地区 2021 年度開業)

4-2 まちの再開発の推進

4-3 駅・駅前広場・地下道の活用・改良

活動スケジュール

目標	戦略	まちづくり活動	実施スケジュール				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度以降
歴史を感じられるまち	①まちなか全体での空間形成	1-1 空間形成ガイドライン	2019年度から通りごとにガイドラインを作成				
		1-2 商店街のイメージ戦略	2019年度からできる範囲で活動を開始し、徐々にグレードアップを図る				
		1-3 歴史イベント	空間形成ガイドライン・商店街のイメージ戦略を踏まえて実施				
	②平塚八幡宮の参道づくり	1-4 参道の雰囲気づくり	空間形成ガイドライン・商店街のイメージ戦略を踏まえて実施				
		1-5 交通規制の改善提案	参道の雰囲気づくりの成果を踏まえて実施				
人が集まる・集まりやすいまち	①人が集まる場づくり	2-1 まちなかベース	2019年度から企画・整備・運営				
		2-2 安心してゆっくり滞在できる場づくり	2019年度から社会実験等を進め、本格実施へ移行				
	②活動の演出	2-3 スポーツのまち	他の活動の状況を踏まえて実施				
		2-4 多様な人々の活動の演出	まちなかベースを活用して徐々に多様な人の活動の場を広げる				
		2-5 集客イベントの強化	イベントの検証を踏まえた集客イベント強化の提案				
	③利便性の向上	2-6 交通利便性の向上	2019年度から検討・提案				
商業者のネットワークが強いまち	①新規出店者の獲得	3-1 空き店舗を活用した新規出店者の誘致	情報収集	プロモーションの実施			
		3-2 新規出店者の支援	検討・提案				
	②商業者の連携強化	3-3 商業者意識調査	実施				
		3-4 防災対策	検討				
	③商業者の連携によるまちの魅力づくり	3-5 まちのコンシェルジュ	情報収集	活動の実施・徐々に拡充			
機能更新が進むまち	①まちのリニューアルの推進	4-1 平塚駅西口と見附台周辺地区を結ぶまちの軸の提案	継続的に懇談会を開催(2021年度開業に向けて早期に開始)				
		4-2 まちの再開発の推進	民間開発事業者から要望があったら懇談会等を実施				
		4-3 駅・駅前広場・地下道の活用・改良	まちなか、全市的な活性化の視点から検討・提案				

2. 情報発信方法

まち活の活動状況やイベント等の告示の情報について、多くの人がリアルタイムで触れられるように、様々な取り組みを行っていきます。

(1) ロードマップの公表

本ロードマップの概要とまち活について、パンフレットを作成し、関係者等に配布し、情報提供を行います。

(2) ホームページやSNS等を使った情報提供

まち活のホームページを作成やSNSの活用を検討し、まち活の活動の情報をリアルタイムに提供していきます。また、市のホームページを活用し、情報提供を行っていきます。

(3) まち活ニュースの発行

定期的なまち活の活動内容を掲載する“まち活ニュース”を作成し、まちなかの店舗や住宅等へ配布します。

3. ロードマップの進行管理方法

(1) 定期的な進行管理

まち活と平塚市は、ロードマップに沿った活動の進捗状況を確認し、目標の達成に向けて、まちづくり活動を実現していくために、進行管理を行っていきます。

定期的に、まち活の会議を開催し、部会活動の状況等を共有します。

また、定期的に意見交換会を開催し、商店会の代表、自治会の代表、その他の方々の意見を取り入れることとします。

さらには、年度末に、平塚市中心市街地活性化調整協議会へ1年間の活動状況を報告し、意見交換を行うこととします。

(2) 年度毎のブラッシュアップ

まち活と平塚市は、年度毎にまちづくり活動の実施状況と効果を分析し、必要に応じて、当該ロードマップのマイナーチェンジを行い、まちなかの実態や状況にあった活動を行っていくこととします。

(3) 目標の達成状況の確認

まち活と平塚市は、計画期間の最終年度の2022年度には、各種調査により目標の達成状況を検証することとします。

また、その検証結果を踏まえて、2023年度以降を計画期間とする「平塚まちなか活性化ロードマップ ver.2.0」を策定することを予定します。